



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月9日

上場会社名 ロート製薬株式会社 上場取引所 東・大
 コード番号 4527 URL <http://www.rohto.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉野俊昭
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画本部長 (氏名) 斉藤雅也 (TEL) (06)6758-1211
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月12日 配当支払開始予定日 平成24年12月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	58,757	5.5	5,628	10.7	5,940	8.9	3,448	15.4
24年3月期第2四半期	55,690	6.0	6,304	17.8	6,521	16.6	4,077	13.1

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 2,400百万円(4.0%) 24年3月期第2四半期 2,501百万円(47.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	29.33	29.21
24年3月期第2四半期	34.68	34.53

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	131,945	85,086	63.9
24年3月期	136,008	83,627	60.9

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 84,257百万円 24年3月期 82,773百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期		8.00		8.00	16.00
25年3月期		8.00			
25年3月期(予想)				9.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	127,000	5.6	14,200	4.2	14,400	5.2	8,500	3.9	72.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 有 |
| 修正再表示 | : 無 |

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料6ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	117,924,768株	24年3月期	117,919,596株
期末自己株式数	25年3月期2Q	332,271株	24年3月期	330,789株
期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	117,590,222株	24年3月期2Q	117,583,296株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(参考) 平成25年3月期の個別業績予想(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	80,000	3.2	11,200	2.1	11,800	2.3	7,200	28.8	61.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報等	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期純利益 (百万円)
平成25年3月期 第2四半期累計期間	58,757	5,628	5,940	3,448
平成24年3月期 第2四半期累計期間	55,690	6,304	6,521	4,077
増減率 (%)	5.5	10.7	8.9	15.4

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、消費マインドの低下に緩やかな持ち直しの動きがみられたものの、欧米諸国の財政不安や景気の低迷により長期化する円高の影響を受け、先行きの景況感が極めて不透明な状況が続いております。また、海外におきましては、中国や新興国の景気拡大に牽引され、緩やかながらも回復傾向が続いたものの、欧州における財政危機の影響や、米国での失業率の高止まりなどにより、経済の回復は停滞した状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは顧客志向の新製品開発やマーケティング活動により新規分野への展開を図るとともに、既存分野におきましても高付加価値の製品を開発し、市場の活性化に努めてまいりました。

その結果、売上高は587億5千7百万円（前年同期比 5.5%増）となりました。

利益面につきましては、売上が堅調に推移したものの、販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は56億2千8百万円（同 10.7%減）、経常利益は59億4千万円（同 8.9%減）、四半期純利益は34億4千8百万円（同 15.4%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

		売上高（外部顧客に対する売上高）			
		第2四半期累計期間		増減額 (百万円)	増減率 (%)
		前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)		
報告 セグ メン ト	日本	40,881	42,701	1,820	4.5
	アメリカ	2,577	2,428	149	5.8
	ヨーロッパ	2,003	1,835	167	8.4
	アジア	9,488	10,898	1,409	14.8
	計	54,950	57,863	2,913	5.3
その他		740	893	153	20.7
合計		55,690	58,757	3,066	5.5

<日本>

外部顧客への売上高は、427億1百万円（前年同期比 4.5%増）となりました。

日本のヘルスケア市場は、業種業態を越えた企業の新規参入など市場競争が激化しデフレが進行していることに加え、長引く円高の影響もあり、先行きの景況感是不透明なまま推移いたしました。また、消費者の生活防衛意識の高まりから消費マインドが冷え込んでおり、厳しい経営環境が続いております。

そのような中であって、整肌保湿成分のPQQ（ピロロキノリンキノン）を世界で初めて配合した美容液「オバジ アクティブベース PQエッセンス」をはじめとした「オバジ」ブランドが好調に推移し、男性用化粧品「オキシー」や、女性用育毛剤が好調な「50の恵」などのビューティー関連品も順調に推移いたしました。

また、かかと水虫という新市場を開拓した新製品の「メンソレータム エクシブ ディープ10クリーム」や高付加価値型目薬の「解眼新書」シリーズ等の医薬品も好調に推移しております。さらに、通販限定商品の成長期応援飲料「セノビック」が好調に推移し、増収となりました。一方で、「肌研(ハダラボ)」につきましては、前年同期の「白潤(シロジュン)」シリーズにおけるディズニーキャンペーンの反動もあり減収となりました。

セグメント利益(営業利益ベース)につきましては、広告費及び販売促進費等の増加により、45億3千2百万円(同 14.3%減)となりました。

<アメリカ>

外部顧客への売上高は、24億2千8百万円(前年同期比 5.8%減)となりました。

米国での失業率の高止まりや消費の停滞もあり、厳しい経営環境が続いております。「ROHTO cool」を中心に目薬が順調に推移したものの、「softlips」「OXY」等の主力製品が減収となりました。

セグメント利益(営業利益ベース)につきましては、売上高が減少したものの、広告費及び販売促進費の効率的な活用に努めました結果、4千6百万円の損失(前年同期のセグメント損失は1億4百万円)となりました。

<ヨーロッパ>

外部顧客への売上高は、18億3千5百万円(前年同期比 8.4%減)となりました。

ヨーロッパ全体の財政危機の影響で市場環境が好転しなかったこともあり、厳しい経営環境となりました。消炎鎮痛剤「DEEP HEAT」シリーズは堅調に推移いたしましたが、「OXY」等が減収となりました。

セグメント利益(営業利益ベース)につきましては、売上高が減少したものの、広告費及び販売促進費の効率的な活用に努めました結果、1億3千8百万円(同 18.2%増)となりました。

<アジア>

外部顧客への売上高は、108億9千8百万円(前年同期比 14.8%増)となりました。

中国をはじめアジアへの積極展開を進めている「肌研(ハダラボ)」や、男性用化粧品「Mentholatum Men」、日焼け止め「サンプレイ」などのスキンケア関連が好調に推移し、増収に寄与いたしました。

セグメント利益(営業利益ベース)につきましては、「肌研(ハダラボ)」等への販売促進費が増加したものの、増収が寄与したことにより9億8千5百万円(同 1.2%増)となりました。

<その他>

報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外部顧客への売上高は8億9千3百万円(前年同期比 20.7%増)となりました。

セグメント利益(営業利益ベース)につきましては、6千6百万円(同 117.6%増)となりました。

参考：製品(サービス)別の売上状況

製品(サービス)別の売上状況は以下のとおりであります。

	売上高			
	第2四半期累計期間		増減額 (百万円)	増減率 (%)
	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)		
アイケア関連	11,952	12,338	385	3.2
スキンケア関連	34,065	36,824	2,759	8.1
内服・食品関連	7,705	7,644	61	0.8
その他	1,967	1,950	17	0.9
合計	55,690	58,757	3,066	5.5

(注)上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は1,319億4千5百万円となり、前連結会計年度末より40億6千2百万円減少しました。これは、投資その他の資産のその他が24億9千8百万円、商品及び製品が9億8千3百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が68億7千2百万円、現金及び預金が13億2千3百万円減少したこと等によるものであります。

負債は468億5千8百万円となり、前連結会計年度末より55億2千2百万円減少しました。これは、未払費用が25億9千2百万円、短期借入金が9億9千7百万円、未払法人税等が7億8千8百万円、長期借入金6億8千1百万円減少したこと等によるものであります。

また、純資産につきましては850億8千6百万円となり、前連結会計年度末より14億5千9百万円増加しました。これは、為替換算調整勘定が5億9千6百万円、その他有価証券評価差額金が4億4千7百万円減少した一方、利益剰余金が25億8百万円増加したこと等によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ13億2千3百万円減少し、140億5千7百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、65億6千1百万円と前年同期に比べ13億3千7百万円増加しました。これは、税金等調整前四半期純利益が54億3千8百万円(前年同期は67億6千7百万円)と減少しましたが、資金の増加要因である売上債権の減少額が66億2千8百万円(前年同期は49億8千5百万円)と増加したことや法人税等の支払額が27億4千3百万円(前年同期は36億4百万円)と減少したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、51億8千7百万円と前年同期に比べ8億7千7百万円減少しました。これは、長期貸付けによる支出が22億6千3百万円(前年同期は2億1百万円)と増加しましたが、有形固定資産の取得による支出が20億5千万円(前年同期は51億1千4百万円)と大幅に減少したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、26億9百万円(前年同期は19億3千1百万円の収入)となりました。これは、前年同期に31億4千万円あった長期借入れによる収入がなかったことや長期借入金の返済による支出が15億1千1百万円(前年同期は4億6千5百万円)と増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)
平成25年3月期	127,000	14,200	14,400	8,500
平成24年3月期	120,292	13,624	13,684	8,184
増減率(%)	5.6	4.2	5.2	3.9

当第2四半期連結累計期間の業績は、厳しい環境の中、売上高は過去最高を更新し好調に推移いたしました。利益面につきましては減益となりましたが、平成24年5月11日に公表の連結業績予想は達成いたしました。しかしながら、現在の経済状況は、日本における個人消費の回復に力強さを欠き、先行きの景況感は依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループはさまざまな事業環境の変化に対応し、さらなる事業の拡大と業績向上に向けて、お客様ニーズの変化に的確に対応した新製品、新ブランドを創出するとともに、幅広い企業との連携を図るなど様々な改革に挑戦してまいります。

通期の業績につきましては、売上高の好調を反映し、平成24年5月11日に公表した業績予想の売上高、営業利益、経常利益を上方修正いたします。

なお、通期の連結業績予想に用いた為替レートは〔80円=1USD〕と前回公表時より変更しておりません。

上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,381	14,057
受取手形及び売掛金	31,898	25,025
商品及び製品	10,913	11,897
仕掛品	1,161	1,389
原材料及び貯蔵品	5,931	6,575
その他	6,088	6,632
貸倒引当金	94	80
流動資産合計	71,280	65,497
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	19,022	19,303
機械装置及び運搬具(純額)	9,342	9,633
その他(純額)	14,262	13,990
有形固定資産合計	42,628	42,926
無形固定資産		
のれん	958	862
その他	1,315	1,287
無形固定資産合計	2,273	2,149
投資その他の資産		
投資有価証券	14,945	14,014
その他	5,008	7,507
貸倒引当金	128	150
投資その他の資産合計	19,826	21,371
固定資産合計	64,727	66,448
資産合計	136,008	131,945
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,525	10,380
短期借入金	5,103	4,106
未払費用	16,029	13,437
未払法人税等	2,755	1,967
賞与引当金	1,861	1,853
役員賞与引当金	30	15
返品調整引当金	700	650
売上割戻引当金	2,651	2,160
その他	5,277	5,331
流動負債合計	44,935	39,901

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
固定負債		
長期借入金	3,335	2,653
退職給付引当金	1,843	1,830
役員退職慰労引当金	69	70
その他	2,197	2,403
固定負債合計	7,445	6,957
負債合計	52,380	46,858
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,405	6,408
資本剰余金	5,524	5,527
利益剰余金	73,814	76,322
自己株式	270	271
株主資本合計	85,475	87,987
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,013	2,566
為替換算調整勘定	5,133	5,729
在外子会社の年金債務調整額	581	566
その他の包括利益累計額合計	2,701	3,729
新株予約権	579	573
少数株主持分	273	255
純資産合計	83,627	85,086
負債純資産合計	136,008	131,945

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	55,690	58,757
売上原価	23,580	24,551
売上総利益	32,109	34,205
返品調整引当金戻入額	210	50
差引売上総利益	32,320	34,255
販売費及び一般管理費	26,015	28,626
営業利益	6,304	5,628
営業外収益		
受取利息	43	59
受取配当金	263	269
持分法による投資利益	5	53
その他	110	133
営業外収益合計	422	516
営業外費用		
支払利息	113	92
その他	92	112
営業外費用合計	206	204
経常利益	6,521	5,940
特別利益		
特許関連収入	281	-
特別利益合計	281	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	502
貸倒引当金繰入額	35	-
特別損失合計	35	502
税金等調整前四半期純利益	6,767	5,438
法人税等	2,706	2,012
少数株主損益調整前四半期純利益	4,061	3,425
少数株主損失()	16	23
四半期純利益	4,077	3,448

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,061	3,425
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	718	447
為替換算調整勘定	866	592
在外子会社の年金債務調整額	23	15
持分法適用会社に対する持分相当額	1	0
その他の包括利益合計	1,560	1,024
四半期包括利益	2,501	2,400
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,538	2,420
少数株主に係る四半期包括利益	36	20

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,767	5,438
減価償却費	2,079	2,452
のれん償却額	95	96
貸倒引当金の増減額(は減少)	11	11
賞与引当金の増減額(は減少)	79	8
役員賞与引当金の増減額(は減少)	9	15
退職給付引当金の増減額(は減少)	24	11
返品調整引当金の増減額(は減少)	210	50
売上割戻引当金の増減額(は減少)	138	491
投資有価証券評価損益(は益)	1	502
貸倒引当金繰入額	35	-
受取利息及び受取配当金	306	329
支払利息	113	92
持分法による投資損益(は益)	5	53
売上債権の増減額(は増加)	4,985	6,628
たな卸資産の増減額(は増加)	1,188	2,063
仕入債務の増減額(は減少)	836	136
その他	4,334	2,987
小計	8,657	9,098
利息及び配当金の受取額	286	302
利息の支払額	116	96
法人税等の支払額	3,604	2,743
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,223	6,561
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	5,114	2,050
無形固定資産の取得による支出	112	160
投資有価証券の取得による支出	692	270
投資有価証券の売却による収入	125	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	96
短期貸付金の純増減額(は増加)	220	310
長期貸付けによる支出	201	2,263
その他	149	229
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,065	5,187
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	169	140
長期借入れによる収入	3,140	-
長期借入金の返済による支出	465	1,511
配当金の支払額	940	940
その他	26	17
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,931	2,609
現金及び現金同等物に係る換算差額	441	88
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	648	1,323
現金及び現金同等物の期首残高	14,005	15,381
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,654	14,057

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	40,881	2,577	2,003	9,488	54,950	740	55,690		55,690
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	810	535	1	764	2,112	9	2,122	2,122	
計	41,691	3,113	2,004	10,253	57,063	750	57,813	2,122	55,690
セグメント利益 又は損失()	5,286	104	116	974	6,272	30	6,303	1	6,304

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、カナダ等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、南アフリカの現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益又は損失()の調整額1百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	42,701	2,428	1,835	10,898	57,863	893	58,757		58,757
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	699	589	1	1,185	2,475	9	2,485	2,485	
計	43,401	3,017	1,836	12,084	60,339	902	61,242	2,485	58,757
セグメント利益 又は損失()	4,532	46	138	985	5,609	66	5,676	47	5,628

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、カナダ等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、南アフリカの現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益又は損失()の調整額 47百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。